

令和7年度 授業改善推進プラン（国語）

1 学校全体の取組

<p>●研究テーマ 学び合い、教え合い、高め合う集団の育成 ～対話的な学びの充実を目指して～</p> <p>●研究仮説 心理的安全性の視点に基づいた学級経営・集団の育成を図り、それを基にした学び合い・教え合いの活動を取り入れた 授業を行うことで、生徒の対話的な学びが充実し、新たな視点・価値観を見出すことができるようになる。</p> <p>●協調学習について 研究テーマの実現を目指し、その仕掛けとして「協調学習」を推進しています。 協調学習：一人ひとりの生徒が自らの頭で考え、仲間と考えを比較吟味し、より適切な答えをつかっていく学習スタイル。</p>
--

★1年 綾部 恭彦

2 福生市学力調査からみる教科の状況（成果）

	質問項目・学力調査の問題	R7学校	R7全国
設	登場人物の描写に合う説明を選ぶ	63.5%	55.9%

3 福生市学力調査からみる教科の状況（課題）

	質問項目・学力調査の問題	R7学校	R7全国
領	書くこと	40.5%	46.4%
設	漢字の書き（妹はおばと顔がにている）	59.5%	72.5%
設	同じ構成の四字熟語を選ぶ	18.9%	32.3%
意	質問したりアドバイスし合ったりして思いや考えを伝え、先生や友だち、地域の人と進んで交流しようとしている。	50.0%	62.3%

4 課題に関する分析（児童・生徒の実態含む）

協調学習を推進していくにあたり必要とされる基礎的な学力の不足が見られ、学力調査でも、漢字や語彙、書く力等で全国を大きく下回っている。協調学習に必要な、考えを伝えたり進んで交流しようとしたりする意識が低い。

5 課題を改善するためのより具体的な手だて

- (1)ドリルパークなどのICTを活用して、該当単元の習熟を図る。
- (2)定期的に1、2学年時の既習事項（漢字・文法など）を確認する小テストを実施する。
- (3)協調学習を積極的に取り入れ、自分の考えを伝える機会を増やす。

★2年 伊藤 楓

2 福生市学力調査からみる教科の状況（成果）

	質問項目・学力調査の問題	R7学校	R7全国
領	話すこと・聞くこと	82.3%	84.1%
小	異なる部首の漢字を選ぶ	93.0%	85.8%

3 福生市学力調査からみる教科の状況（課題）

	質問項目・学力調査の問題	R7学校	R7全国
小	漢字の書き（家族で工場をいとなむ）	50.0%	67.9%
小	条件に従って具体的にまとめた文を空欄に書く	34.9%	48.7%
小	話し合いと文章の内容を踏まえて空欄に入る言葉を書く	40.7%	52.2%
意	国語の授業で、グループで話し合いや教え合いをしている	72.1%	80.1%

4 課題に関する分析（児童・生徒の実態含む）

協調学習を実施した単元に関しては、全国の平均を上回ることができ、ただ意見を述べるのではなく、文章や相手との対話の内容を踏まえて、意見を構築することができるようになったといえる。
一方、対話の中でより仲間と考えを比較吟味するためには、基礎的な言語能力の定着を図る必要がある。また、品詞分類や漢字など既習事項を確認・活用する場を意図的に設けることが求められる。

5 課題を改善するためのより具体的な手だて

- (1)ドリルパークなどのICTを活用して、該当単元の習熟を図る。
- (2)協調学習を活用した授業を継続したうえで、それとは別に定期的に1、2学年時の既習事項（品詞・動詞の活用・漢字など）を確認する小テストを実施する。それにより、生徒が確認・活用できるようにする。

★3年 湯浅 愛

2 福生市学力調査からみる教科の状況（成果）

	質問項目・学力調査の問題	R7学校	R7全国
小	複数の条件に従って自分の考えを書く	60.3%	51.0%
領	書くこと	65.4%	61.8%
意	友だちが書いた文章や話したことを参考にして、自分にはない新しい考えや自分とは違う考えを持つようとしている。	89.7%	84.6%

3 福生市学力調査からみる教科の状況（課題）

	質問項目・学力調査の問題	R7学校	R7全国
小	正しい敬語を選ぶ	60.3%	63.4%
小	同じ品詞のものを選ぶ（つい）	44.9%	50.1%
領	言葉・情報・言語文化	39.7%	50.1%
意	敬語や丁寧語に、どのような心が込められているかを考えている。	75.6%	79.2%

4 課題に関する分析（児童・生徒の実態含む）

協調学習を実施した単元に関しては、全国の平均を上回ることができ、ただ意見を述べるのではなく、文章や相手との対話の内容を踏まえて、意見を構築することができるようになったといえる。
一方、対話の中でより仲間と考えを比較吟味するためには、基礎的な言語能力の定着を図る必要がある。また、品詞分類や漢字など既習事項を確認・活用する場を意図的に設けることが求められる。

5 課題を改善するためのより具体的な手だて

- (1)ドリルパークなどのICTを活用して、該当単元の習熟を図る。
- (2)協調学習を活用した授業を継続したうえで、それとは別に定期的に1、2学年時の既習事項（品詞・動詞の活用・漢字など）を確認する小テストを実施する。それにより、生徒が確認・活用できるようにする。